

式辞

柔らかな春の風と光に包まれ、校庭や御射山公園の桜が、今日の日に合わせてるように早々と開花しました。新しくすべての命が輝くこの春のよき日に、新たなステージへ巣立つ時を迎えた百二十二名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの卒業をお祝いするため、ご来賓の七学区自治連合会の会長様、PTA会長様をはじめ、保護者の方々がご出席くださいました。

先ほど、卒業生代表の四名の手に、心を込めて卒業証書をお渡ししました。皆さん一人一人が自分で作った手漉き和紙の卒業証書。これは、ここ高倉小学校で学んだ証しとなるものです。担任の先生方から名前を呼ばれて返事をする皆さんの顔を一人一人見ながら、これまで六年間のいろいろなことが思い出されました。

皆さんが低学年の頃を思い返してみますと、二年生の時には、「おもちゃフェスティバル」や「お米フェスティバル」で、工夫して一年生を楽しませていたことや、三年生のときに、交通安全について、保護者の方々や地域の方々と話し合い、それをすごろくにしてもらったものをもとに、下級生である二年生に、交通安全について楽しく伝えていた様子が思い出されました。また、低学年のたてわり遠足では、グループのリーダーとなって、一、二年生の思いを大切にしながらリードしてくれたことを思い出していました。皆さんは、低学年の頃から、下級生思いの頼りになるお兄さん、お姉さんでしたね。

皆さんが高学年になってからは、新型コロナウイルス感染症の影響で、それまで当たり前でできていたことが当たり前でなくなってしまうという状況となり、十分に活躍する機会が少なくなってしまう、とても残念に思っていました。そのような中、コロナ禍で少なくなってしまった人と人との直接的なつながりを増やしていきたいと皆さんが考えて誕生した、「つながりプロジェクト」、通称「つなプロ」。皆さんのおかげで、それまであまり関わりがもてていなかった学年間の交流をすることができ、みんなの笑顔が増え、高倉小学校の全体が元気になることができました。この「つなプロ」は、今後、高倉小学校の新たな伝統として、下級生に受け継がれていくことでしょう。交流や普段の生活の中で見せてくれた下級生を思う優しい姿に、一年生から五年生みんなは、六年生のことが大好きでした。下級生の憧れの六年生、中学生になっても、変わらず、下級生の憧れの存在でいてほしいです。

そのような皆さんに、卒業にあたり、私からのメッセージを送りたいと思います。

新しい世界へ向かって、まさに、今飛び立とうとしている皆さん。これからの未来の自分は、他の誰でもない、今の自分自身がつくっていくのです。なりたい自分を思い描いて、それに向かって努力することが、人が人としてよりよく生きていく姿そのものです。

今、私たちを取り巻く社会は、驚くべき速さで変化しています。とりわけ、科学技術の発展は著しく、AIの進化は、目を見張るものがあります。大きな期待と共に、現在のような未曾有の感染症などの流行、自然災害や環境の変化、国々の争いや急激な経済の変動など、予測できない不安も大きい時代です。だからこそ、自分としっかり向き合い、今の自分を的確に捉え、未来の「なりたい自分」の姿を描くことは、生きていく上で大きな意味をもっています。

四月からは中学生。たくさんの「なりたい自分」を思い描いてください。そして、それに近づくために、惜しまず努力をしてください。自分はどうありたいのか、どのような人になりたいのか、何がしたいか、できるようになりたいことは何なのか、具体的に描けることが具体的に努力

できることにつながります。以前、「努力のつぼ」というお話をしましたが、努力が必ずしも、いつもよい結果に結びつくとは限りません。悔しい思いをすることもあるでしょう。けれども、具体的な努力は、必ず自分の力として身につきます。決して無駄にはなりません。

なりたい自分になるために、大事なことが二つあります。一つは、「自分を決めつけないこと」、そして、もう一つは、「自分をあきらめないこと」です。皆さんの中には、皆さん自身でもまだ気づいていない自分が眠っています。それが、「可能性」です。自分はこうだから、と決めつけて、自分の中にある可能性に蓋をしてしまうのは、とてももったいないことです。可能性は、無限です。そして、簡単に自分をあきらめないことです。あきらめない限り、努力は自分を前に進めてくれます。私たち高倉小学校の教職員は、皆さん一人一人の可能性を信じています。

また、皆さんの今日までの成長の陰には、ご家族の溢れる愛情、ご苦労があったことも忘れてはなりません。地域やPTAの方々、学校の教職員の方々、そして、いつも一緒だった友だち。多くの人々に支えられ、励まされ助けられてきたことを思い、感謝の気持ちをもち続けてほしいと思います。その気持ちは、いつも皆さんの力になるものです。そのことは、皆さんは、よくよく分かってくれていることと思います。今年の六年生の皆さんは、総合的な学習の時間に、「今、わたしにできること」という学習の中で、これまで自分たちを支えてきてくださった皆さんへの感謝の気持ちを目に見える形で表してきてくれました。そして、今日、小学校生活最後の日に、皆さんの立派な姿を見せることが、その集大成です。最後まで、しっかりと締めくくってくれることと期待しています。

保護者の皆様に、一言お祝い申し上げます。お子達のご卒業、誠におめでとうございます。これまで愛情を注いで育ててこられたお子達の今日の晴れの姿に感慨もひとしおかと存じます。入学から卒業までの長いようで短い六年間。小学校の課程において、お子達は著しい成長をされました。これからお子達は、人生の中で最も多感な時期にさしかかります。今後も、ご家族の絆をしっかりと結び付け、温かく見守っていただきますよう、お願いいたします。これまでの六年間、高倉校の教育に対して温かいご理解とお力添えを賜りましたことに心より感謝申し上げます。私たち教職員は巣立っていく百二十二名の子どもたちをいつまでも応援し続けます。お子達の一層の活躍と幸せを心より祈念いたしております。

最後になりましたが、本日ご来賓の七学区自治連合会会長様、PTA会長様には、ご多用の中、ご臨席賜り、百二十二名の門出を祝福していただき、誠にありがとうございました。高いところからではありますが、厚くお礼申し上げます。皆様方の六年間の温かい見守りのおかげにより、無事今日の日を迎えることができました。本当にありがとうございました。今後も、この高倉校区の子どもたちを温かく見守っていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、皆さんが育ってきたこの高倉の地域、高倉小学校がいつまでも皆さんのふるさとであることも忘れないでほしいと思います。これまでつくってきたつながり、そして、これからつくるつながりを大切に、自分を信じて、輝かしい未来や夢に向かって大きく羽ばたいてください。

以上をもちまして式辞といたします。

令和五年 三月二十三日

京都市立高倉小学校 校長 野口十三枝